

《社会性・行動》

ここでは、学習態度やクラスメートとのかかわりについて質問いたします。これらの質問は教科学習に直接的・間接的に関係すると考えられている項目です。質問事項の表現は、一見、こどの者悪口のような項目がなっています。先生や子どもがどういうこと困っているかを具体的に表す表現を用いたので、このような聞き方になっております。子どもの悪い面だけを把握する目的でなく、特徴をはっきり質問する目的でこのような表現になっておりますのでよろしくご理解ください。

次に示す項目で該当すると思われる項目があれば□にチェック(V)をして下さい。お答えいただくに当たっては、児童が普段の生活や学習を行う時に特に目立つものにお答え下さい。

各項目もれなく回答の上ご記入下さい。

I. 授業場面で以下のような様子がみられますか？

- 1 □席にじっと座ってられないことが目立つ
- 2 □おしゃべりが非常に多い
- 3 □課題に注意を持続することがとても難しい
- 4 □特に、新しいもの、難しそうなものだと「分からない、出来ない」といって初めから学習や活動に取り組もうとしない
- 5 □作業が極端に遅い
- 6 □黒板の視写に時間がかかる
- 7 □ぼーっとしている時間が多くみられる
- 8 □物や状況に対して極端なこだわりがある
- 9 □他児にちょっかいを出すことがとても多い
- 10 □教師の問いかけに対して黙っていて答えようとしなない
- 11 □いつも教師の注意をひこうとする
- 12 □指示に従うことができない
- 13 □教師からの働きかけに対しロごたえが多い
- 14 □質問に対して的はずれな答をすることが多い
- 15 □質問をされたとき、発表の時などに吃音やチックがしやすい
- 16 □物をよくなくしたり、こわしたりする

II. 休み時間等で以下のような様子がみられますか？

- 17 □集団のゲームのルールがほとんど分からない
- 18 □相手の嫌がることをしたり、言ったりすることが非常に多い
- 19 □非常に乱暴である
- 20 □けんかが極端に多い
- 21 □いつも独りでいて、友達と□をきくことはめったにない

III. 生活習慣に関して以下のような様子がみられますか？

- 22 □忘れ物が非常に多い
- 23 □遅刻が多い
- 24 □机の中、ロッカーの中がとても乱雑である
- 25 □偏食、過食、小食などが著しい

《音楽・図工・体育について》

高学年（5・6学年）用：

次に示す項目で該当すると思われる項目があれば口にチェック(V)をして下さい。お答えいただくに当たっては、児童が普段の学習を行う時に特に目立つものにお答え下さい。

未学習のため不明である場合には、口に「未」の文字をつけて下さい。

{音楽}

- 1 リコーダーで学年相当の曲を演奏することが難しい
- 2 身体表現をしながら歌をうたうことが難しい
- 3 合唱することが難しい

{図画工作}

- 4 はさみを使い、直線や曲線に沿って紙を切ることが難しい
- 5 折り紙の端を揃えて折ることができない
- 6 見たこと、感じたこと、想像したことを絵や立体に表すことが難しい

{体育}

- 7 「走の運動（リレー、反復、横跳び等）」の指導が、他の児童と比べて特に難しい
- 8 「力試しの運動（手押し車等）」の指導が、他の児童と比べて特に難しい
- 9 「器械・器具を使つての運動（平均台等）」の指導が、他の児童と比べて特に難しい
- 10 「なわとび」の指導が、他の児童と比べて特に難しい
- 11 「ボール操作」の指導が、他の児童と比べて特に難しい
- 12 「浮く・泳ぐ運動」の指導が、他の児童と比べて特に難しい
- 13 「ゲーム（ポートボール等）」の指導が、他の児童と比べて特に難しい
- 14 「表現運動（フォークダンス）」の指導が、他の児童と比べて特に難しい
- 15 スキップができない

《音楽・図工・体育について》

2・3・4学年用：

次に示す項目で該当すると思われる項目があれば口にチェック(V)をして下さい。お答えいただくに当たっては、児童が普段の学習を行う時に特に目立つものにお答え下さい。

未学習のため不明である場合には、口に「未」の文字をつけて下さい。

{音楽}

- 1 鍵盤ハーモニカ・リコーダーで学年相当の曲を演奏することが難しい
- 2 身体表現をしながら歌をうたうことが難しい

{図画工作}

- 3 はさみを使い、直線や曲線に沿って紙を切ることが難しい
- 4 折り紙の端を揃えて折ることができない
- 5 感じたこと、想像したことを自由に絵に表すことが難しい

{体育}

- 6 「走の運動（かけっこ、リレー等）」の指導が、他の児童と比べて特に難しい
- 7 「跳の運動（幅跳び、ゴム跳び等）」の指導が、他の児童と比べて特に難しい
- 8 「力試しの運動（片足すもう、手押し車等）」の指導が、他の児童と比べて特に難しい
- 9 「器械・器具を使つての運動（登り棒、鉄棒、平均台等）」の指導が、他の児童と比べて特に難しい
- 10 「なわとび」の指導が、他の児童と比べて特に難しい
- 11 「ボール操作」の指導が、他の児童と比べて特に難しい
- 12 「水遊び」や「浮く・泳ぐ運動」の指導が、他の児童と比べて特に難しい
- 13 「模倣運動」の指導が、他の児童と比べて特に難しい
- 14 「ゲーム（ボール遊び、鬼遊び、ポートボール等）」の指導が、他の児童と比べて特に難しい
- 15 スキップができない

4.5.6 学年用

《算数における特異な困難について》

次に示す項目で該当すると思われる項目があれば口にチェック(V)をして下さい。お答えいただくに当たっては、児童が普段の学習を行う時に特に目立つものにお答え下さい。

未学習のため不明である場合には、口に「未」の文字をつけて下さい。

I. 図形

- 1 三角定規やコンパスなどの器具を用いて、図形（多角形や円）を描き出すことが難しい
- 2 図形の見取り図や立面図などを描くことが難しい
- 3 図形の構成要素（辺、頂点、角、直径、中心など）や構成要素間の関係の理解が難しい

II. 数

- 4 小数の表記が困難である
- 5 分数を小数に書き直すことができない
- 6 小数点以下第3位数までの数の値がいくらであるか理解できない
- 7 分数の表記が困難である
- 8 小数を分数に書き直すことができない
- 9 分母の大きい方が、分数としての値が大きいと理解している
- 10 帯分数を仮分数に直す、あるいはこの逆の操作を行うことが難しい

III. 計算

- 11 十、一、×、÷、＝、<、>などの記号の意味が理解できない
- 12 四則計算が行われる場合に、自分勝手なルールを作り、これに従って計算を行うことがある
(例：0を含んだ計算式については、いうもその部分を避けて計算する)
- 13 2位数同士の計算でも、30秒以上の時間がかかることがある
- 14 2位数同士の加法や減法の計算が暗算でできない
- 15 2桁以上の数の筆算の表記において、位を揃えることが難しい
- 16 乗法において、右記のように位取りを誤る

$$\begin{array}{r} 24 \\ \times 32 \\ \hline 48 \\ 72 \end{array}$$

- 17 加法や乗法の筆算においても、計算を左の桁から始める
- 18 筆算においてそれぞれの桁を、以下のように別々に計算する

$$\begin{array}{r} 3 \quad 8 \quad 2 \\ + 4 \quad 5 \quad 6 \\ \hline 7 \quad 13 \quad 8 \end{array}$$

- 19 多くの操作を要する計算問題（例 $9 \div 3 + 2 \times 4$ ）を解くことができない
- 20 分数や小数の計算ができない
- 21 乗法と除法間の関係というように、計算相互の関係が理解できない
- 22 単位の換算（例：12cm \longleftrightarrow 120mm）ができない

IV. 数量関係

- 23 表やグラフから数量の間の関係を読み取ることができない
- 24 変化する数量の間の関係を表やグラフで表すことができない

V. 数学的思考、空間・時間の概念、記憶など

- 25 文章題の問題を読んで、式を立てることができない
- 26 位置や空間の概念を表すことばの意味が理解できない
- 27 時間の概念を表すことばの意味が理解できない
- 28 時計を見て、時刻が読めない
- 29 時間（時、分、秒）の計算ができない
- 30 暦（年、月、週、日）の計算ができない
- 31 九九が暗唱できない
- 32 算数の用語や記号、また面積などを求める公式をなかなか覚えられない

《算数における特異な困難について》

次に示す項目で該当すると思われる項目があれば口にチェック (V) をして下さい。お答えいただくに当たっては、児童が普段の学習を行う時に特に目立つものにお答え下さい。

未学習のため不明である場合には、口に「未」の文字をつけて下さい。

I. 図形

- 1 形を構成したり、分解したりする活動ができない
- 2 正方形、長方形、三角形などの図形を構成する要素がわからない

II. 数

- 3 4 位までの数を読んだり、書き表すことが困難である。
- 4 十二を 102 と、あるいは二百三を 2003 というように書き表すことがある
- 5 1 から 100 までの数の数唱に時間がかかったり、同じ数を二度言ったり、ある数を抜かししたりすることがある
- 6 2 つ以上の数を順序どおりに並べたり、大小を比較したりすることができない

III. 計 算

- 7 十、一、×、÷、＝などの記号の意味が理解できない
- 8 加法や減法の計算が行われる場合に、自分勝手なルールを作り、これに従って計算を行うことがある (例: 式の中の数字にとらわれ、それを答えとして書き表すことがある。3+4=5 というように、加法計算の時に、加数の次の数を機械的に和として書き表すことがある)
- 9 1 位数同士の計算でも、30 秒以上の時間がかかることがある
- 10 1 位数同士の加法計算が暗算でできない
- 11 2 桁以上の数の筆算の表記において、位を揃えることが難しい
- 12 2 桁以外の数の加法の筆算において、計算を左の桁から始めてしまう
- 13 筆算において、それぞれの桁を以下のように別々に計算する

$$\begin{array}{r} 3 \quad 8 \\ + 4 \quad 5 \\ \hline 7 \quad 13 \end{array}$$

- 14 3 つ以上の数の含まれる計算 (例: 5 + 6 - 7) ができない

IV. 数学的思考、空間・時間の概念、記憶など

- 15 文章の問題に関して文章を読んで加法や減法の式に表わすことができない
- 16 2 と 3 を一緒にすれば 5 になることがわかっていながら 5 が 2 といくつになるかがわからない
- 17 加法や減法間の関係というように、計算相互の関係が理解できない
- 18 ~ の上に (~ の下に)、~ の右側に (~ の左側に)、~ の前に (~ の後に) などと言った空間を表す言葉の意味が理解できない
- 19 昨日 (年)、今日 (年)、明日 (年)、あるいはより早い (前) / より遅い (後) というような時間の概念を表すことばの意味が理解できない
- 20 時計を見て、時刻が読めない
- 21 算数の用語や記号が、なかなか覚えられない
- 22 電話番号のような多くの桁の数字を記憶することが難しい
- 21 九九の暗唱ができない

《聞く・話す・読む・書くことの特異な困難について》

共通

以下の各項目について 児童を観察して該当すると思われる項目について口にチェック (V)をして下さい

I. 聞く

- I-1 簡単な単語の意味を取り違えることが多い
- 2 指示に従うことができず、まごつくことが多い
- 3 聞き間違いが多い
- 4 問い亮ことがなかなか覚えられない
- 5 相手の話を聞いていないと感じられることがよくある
- 6 学級の話し合いについていけない
- 7 ちょつとした雑音でも注意がそれやすい

II. 話す

- II-8 意味のある話しことばはない
- 9 おうむ返し（相手が言ったことばを繰り返す）が多い
- 10 特定の音節の発音ができない
- 11 幼児語が多い
- 12 文法的に誤りのある不完全な文で話すことが多い
- 13 的確な言葉を見つけられなかったり、つまったりすることが多い
- 14 相手が聞いて分かるように話せない
- 15 自分だけに意味のある言葉を作って話す

III. 読む

- III-16 読めない平仮名がある
- 17 読めない片仮名がある
- 18 促音や拗音を読み間違える
- 19 助詞「は」「を」「へ」などを読み間違える
- 20 接続詞（だから、けれどもなど）を読み間違える
- 21 文字の順序を読み間違えたり（はしご→はごし）混同したりして読む（にぐるま→にじまる）
- 22 一字一字は読めるが、たどり読みである
- 23 文字を抜かしたり、付け加えたりして読む
- 24 行をとばして読む
- 25 文章の内容がつかめない

IV. 書く

- IV-26 書けない平仮名がある
- 27 書けない片仮名がある
- 28 促音や拗音を間違えて書く
- 29 助詞「は」「を」「へ」などを混同して書く
- 30 接続詞（だから、けれどもなど）を適切に使用できない
- 31 判読しにくい乱雑な文字を書く
- 32 漢字の細かい部分を間違えて書く
- 33 鏡文字（に→4）を書く
- 34 漢字のへんとつくりを反対に書く
- 35 文字を省略したり（がっこう→がこう）、転化させたり（花だん→花ざん）して書く
- 36 当て字を書く（お母さん→おかあ三、シャワー→車わあ）
- 37 文字を並べるだけで意味のある文章が書けない
- 38 黒板の字を視写するのに時間がかかる

(16) 質問が終わる前に答えてしまう。

全くない		少しある*		かなりある*		非常にある*	
「ある*」に該当する場合は関連する具体例							

(17) ゲームや集団行動で列に並んで順番を待つことができない。

全くない		少しある*		かなりある*		非常にある*	
「ある*」に該当する場合は関連する具体例							

(18) 他人の会話やゲームにちょっかいを出したり干渉する。

全くない		少しある*		かなりある*		非常にある*	
「ある*」に該当する場合は関連する具体例							

(10) 椅子に座っていて手足をもじもじしたり身体をくねらせたりする。

全くない		少しある*		かなりある*		非常にある*	
「ある*」に該当する場合は関連する具体例							

(11) 授業中あるいは座っていなければならない状況で席を離れる。

全くない		少しある*		かなりある*		非常にある*	
「ある*」に該当する場合は関連する具体例							

(12) 不適切な状況なのに走り回ったりよじ登ったりする。

全くない		少しある*		かなりある*		非常にある*	
「ある*」に該当する場合は関連する具体例							

(13) 遊びやレジャー活動を静かに楽しむことができない。

全くない		少しある*		かなりある*		非常にある*	
「ある*」に該当する場合は関連する具体例							

(14) 「エンジンで動かされる」ように動きまわる。

全くない		少しある*		かなりある*		非常にある*	
「ある*」に該当する場合は関連する具体例							

(15) 過剰におしゃべりする。

全くない		少しある*		かなりある*		非常にある*	
「ある*」に該当する場合は関連する具体例							

(5) 課題や活動を順序立てて行うことが難しい。

全くない		少しある*		かなりある*		非常にある*	
「ある*」に該当する場合は関連する具体例							

(6) 学校での勉強や宿題など知的な努力を持続することを要求される課題を避けようとしたり、困難を示す。

全くない		少しある*		かなりある*		非常にある*	
「ある*」に該当する場合は関連する具体例							

(7) 課題や活動に必要な物品をなくす。(学校の日課表、鉛筆・。道具、おもちゃ等)

全くない		少しある*		かなりある*		非常にある*	
「ある*」に該当する場合は関連する具体例							

(8) 外からの刺激に容易に気が散ってしまう。

全くない		少しある*		かなりある*		非常にある*	
「ある*」に該当する場合は関連する具体例							

(9) 毎日の活動において忘れっぽい。

全くない		少しある*		かなりある*		非常にある*	
「ある*」に該当する場合は関連する具体例							

注意集中困難や多動について

対象児童氏名： (名前の頭文字イニシャル) (学年)

記入者：所属 小学校：氏名 記入年月日： 年 月 日

記入上の注意

1-1. 注意欠陥／多動性障害(DSM-IV)の項目について、該当するところに○をつけて下さい。

1-2. 「ある*」に該当する項目について、当該児童のエピソードについて具体的に記述して下さい。

.....

(1) 細部に注意を向けることができないか、学校の勉強、その他の活動で不注意な誤りが多い。

全くない		少しある*		かなりある*		非常にある*	
「ある*」に該当する場合は関連する具体例							

(2) 課題や遊びの活動に注意を持続することができない。

全くない		少しある*		かなりある*		非常にある*	
「ある*」に該当する場合は関連する具体例							

(3) 直接話しかけられたときにしばしば聞いていないように見える。

全くない		少しある*		かなりある*		非常にある*	
「ある*」に該当する場合は関連する具体例							

(4) 指示に従って学校での学習、家庭での言いつけをやり遂げることができない(反抗的な行動や指示が理解できないことによるものではない)

全くない		少しある*		かなりある*		非常にある*	
「ある*」に該当する場合は関連する具体例							

LD児診断のためのスクリーニング・テスト集計表

I 聴覚的理解と記憶

1. 単語の意味を理解する力
2. 指示に従う能力
3. クラスでの話し合いを理解する能力
4. 情報を記憶する能力

1	2	3	4	5	小計
1	2	3	4	5	
1	2	3	4	5	
1	2	3	4	5	

II 話しことば

5. ことばの数(語彙)
6. 文法
7. ことばを思い出す能力
8. 経験を話す能力
9. 考えを表現する能力

1	2	3	4	5	小計
1	2	3	4	5	
1	2	3	4	5	
1	2	3	4	5	
1	2	3	4	5	

言語性LD判定

① (I. IIの合計)

/20

III オリエンテーション

10. 時間の判断
11. 土地感覚
12. 関係の判断
13. 位置感覚

1	2	3	4	5	小計
1	2	3	4	5	
1	2	3	4	5	
1	2	3	4	5	

IV 運動能力

14. 一般的な運動
15. バランス
16. 手先の器用さ

1	2	3	4	5	小計
1	2	3	4	5	
1	2	3	4	5	

V 社会的行動

17. 協調性
18. 注意力
19. 手はずを整える能力
20. 新しい状況に適應する能力
21. 社会からの受け入れ
22. 責任感
23. 課題を理解し処理する能力
24. 心遣い

1	2	3	4	5	小計
1	2	3	4	5	
1	2	3	4	5	
1	2	3	4	5	
1	2	3	4	5	
1	2	3	4	5	
1	2	3	4	5	
1	2	3	4	5	

② (III、IV、Vの合計)

非言語性LD判定

/40

(①+②の合計)
総合判定

/65

○集団行動の時、気になる行動

具体的に：

【その他】

○指導上で気になること、困っておられることなどがあれば御記入下さい。

具体的に：

【評定尺度についての感想】

具体的に：

【得意な教科での様子】(教科名、学習の行動などについて)

具体的に：

【不得意な教科での様子】(教科名、学習の行動などについて)

具体的に：

【対人関係】

○ 友人たちとのトラブルのときとる行動について

具体的に：

2 1 【社会からの受け入れ】

- 1 : 友だちから仲間に入れてもらえない
- 2 : 友だちが我慢してつき合える程度である
- 3 : 同学年の子ども相応に友だちから受け入れられ、特に問題はない
- 4 : 友だちからよく好かれている
- 5 : 友だちから好感をもって受け入れられている

具体例：

2 2 【責任感】

- 1 : 全く責任を取ろうとしない
(自分に課せられた責任—基本的な生活習慣等も含む—を果たせない)
- 2 : 責任を避けようとする (自分に課せられた役割を受け入れる能力に限界がある)
- 3 : 同学年の子ども相応に責任がとれる
- 4 : 同学年の子ども以上に責任感がある
(責任をもつことに満足し、自ら進んでやることができる)
- 5 : 進んで責任ある役割をとる (率先して一生懸命やる)

具体例：

2 3 【課題へ理解し処理する能力 (宿題、約束ごと、皆で決めた事等)】

- 1 : 指導しても、やり遂げることができない
- 2 : 指導しても、やり遂げられないことがある
- 3 : 同学年の子ども相応にやり遂げられる (特に問題はない)
- 4 : 同学年の子ども以上にできる (指示されなくても、課題をやり遂げられる)
- 5 : 誰もいなくても、いつも自主的に課題をやり遂げられる

具体例：

2 4 【心遣い】

- 1 : 人の気持ちを理解できず、いつも粗野な行動をとる
- 2 : 友だちの気持ちを無視した行動をとりがちである
- 3 : 同学年の子ども相応である (特に問題はない)
- 4 : 同学年の子ども以上の心遣いができる (社会的に不適切な行動はほとんどとらない)
- 5 : いつも心遣いが行き届く (社会的に不適切な行動は全くとらない)

具体例：

V：社会的行動

17【協調性】

- 1：いつもクラスを乱している（自分の行動や反応を抑えることができない）
- 2：たびたび周囲の者の注意を引こうとする（でしゃばってしゃべりたがる）
- 3：同学年の子どもも相応である（自分の順番を待つことができる）
- 4：同学年の子どもも以上である（うまく協調できる）
- 5：優れた協調性をもつ（大人にいわれなくても協調することができる）

具体例：

18【注意力】

- 1：まったく注意を集中することができない（非常に注意が散漫である）
- 2：ほとんど人の言うことを聞けない（たびたび注意がそれる）
- 3：同学年の子どもも相応である（注意力は特に問題はない）
- 4：同学年の子どもも以上の注意力がある（注意して聞くことができる）
- 5：大事な部分にいつも注意している（注意を長く持続でき、集中できる）

具体例：

19【手はずを整える能力】

- 1：仕事の手順が理解できない（きわめてずさんで、段取りが悪い）
- 2：しばしば仕事の手順が悪く、不正確で不注意である
- 3：仕事の手順が同学年の子どもも相応にできる（気をつけてする）
- 4：仕事の手順の整え方は平均以上である（仕事の手順を整え、やりとげられる）
- 5：仕事の手順の整え方に優れ、課題をきちんと仕上げる

具体例：

20【新しい事態に適応する能力（誕生日会、お楽しみ会、遠足、日課の変化等）】

- 1：新しい状況では興奮しやすく、適応できない（自己抑制が全くできない）
- 2：新しい状況でしばしば過度に反応し、混乱する
- 3：同学年の子どもも相応に適応している（特に問題はない）
- 4：自信を持って、状況を理解し適応する
- 5：非常に優れた適応力がある（独立性があり、率先して行動できる）

具体例：

1 3 【位置感覚】

- 1 : 非常にまごつく (左右、東西南北がわからない)
- 2 : 時々まごつく (左右、東西南北が時々わからなくなる)
- 3 : 同学年の子どもも相応である (左右、東西南北の理解は特に問題はない)
- 4 : 方向感覚がよい
- 5 : 方向感覚が非常に優れている

具体例：

IV : 運動

1 4 【一般的な運動 (歩く・走る・とびはねる・登るなど)】

- 1 : 動作がとても不器用である
- 2 : 同学年の子どもと比べて平均以下である (動作がぎこちない)
- 3 : 同学年の子どもも相応である (動作がぎくしゃくしない)
- 4 : 同学年の子どもも以上である (うまく動作ができる)
- 5 : 動作が非常に優れている

具体例：

1 5 【バランス (平衡機能)】

- 1 : バランスをとるのがとても不器用である
- 2 : 同学年の子どもと比べて平均以下である (しばしばころぶ)
- 3 : 同学年の子どもも相応である (特に問題はない)
- 4 : バランスを必要とする運動で、同学年の子ども以上の能力を示す
- 5 : バランスをとるのが非常にうまい

具体例：

1 6 【手先の器用さ (ハサミを使う、ボタンをはめる、書く、ボールをつかむ等)】

- 1 : 手先がとても不器用である
- 2 : 手先を使うことが同学年の子どもと比べて平均以下である (ぎこちない)
- 3 : 同学年の子どもも相応である (特に問題はない)
- 4 : 同学年の子ども以上に器用である
- 5 : 非常に器用である (新しい物でも要領よく扱える)

具体例：

9 【考えを表現する能力】

- 1 : 個々の事実を関係付けて述べるできない
- 2 : 個々に事実を関係付けて述べるがむづかしい
- 3 : 同学年の子どもも相応である (事実を意味のあるものとして関係づけて述べるができる)
- 4 : 同学年の子ども以上の能力をもつ
(事実と自分の考えをうまく関係づけて述べるができる)
- 5 : 非常に優れている (いつも事実を適切に関係づけて自分の考えを述べるができる)

具体例：

Ⅲ : オリエンテーション (定位)

1 0 【時間の判断】

- 1 : 時間の意味そのものがわからず、いつも遅れたり、まごついたりする
- 2 : 時間の観念は少しはあるが、ぐずぐずしたり、しばしば遅れたりする
- 3 : 同学年子どもも相応である (時間の判断などの能力は特でない)
- 4 : 同学年の子どもと比べて、時間の判断が機敏にできる
(遅れるときには常に正当な理由がある)
- 5 : スケジュールをうまくこなす (うまく計画し、とりまとめることができる)

具体例：

1 1 【土地感覚】

- 1 : 方向感覚が悪く、学校 (園)、校庭、隣近所でいつも迷ってしまう
- 2 : 比較的慣れた場所でも、たびたび道に迷ってしまう
- 3 : 同学年の子どもも相応である (慣れた場所なら迷わない)
- 4 : 土地感覚が同学年の子ども以上の能力をもち、めったに迷ったり、まごついたりしない
- 5 : 新しい状況や場所にうまく適応でき、決して迷わない

具体例：

1 2 【関係の判断 (大-小、遠-近、重-軽)】

- 1 : いつも不適切な判断をする
- 2 : 初歩的な判断はできる
- 3 : 同学年の子どもも相応の判断ができる (特に問題はない)
- 4 : 正確な判断ができるが、それを新しい状況に応用できない
- 5 : 非常に正確な判断ができ、それを新しい状況や経験にも応用できる

具体例：

II：話ことば

5【ことばの数（語彙）】

- 1：同学年の子どもと比べて、いつも幼稚なことばを使い、ことばの数も少ない
- 2：語彙は単純な名詞に限られ、描写なことばをあまり使えない
- 3：同学年の子ども相応の語彙をもつ（特に問題はない）
- 4：同学年の子ども以上の語彙をもつ（正確なことばや描写なことばを多く使える）
- 5：同学年の子どもより高いレベルの語彙をもつ

具体例：

6【文法】

- 1：助詞の〔て・に・を・は〕や、現在・過去などが明確でない話し方をする
- 2：たびたび文法的に誤りの多い不完全な話し方をする
- 3：正しい文法を使って話す（助詞の「て、に、お、は」や、動詞の時制、代名詞の誤りなどは、同学年の子ども相応である）
- 4：同学年の子ども以上の話ことばを使う（文法的誤りはめったにない）
- 5：いつも文法的に正確なことばで話すことができる

具体例：

7【ことばを思い出す力】

- 1：場面にあった的確なことばを思い出すことができない
- 2：考えていることを話すとき、たびたびことばにつまる
- 3：同学年の子ども相応である（ときには、正しいことばを選んでしゃべろうとする）
- 4：同学年の子ども以上にことばを思い出す能力がある
(ことばに詰まることはめったにない)
- 5：いつも上手に話すことばを思い出す能力は非常に高い
(決してことばにつまったり、間違えたりしない)

具体例：

8【経験を話す能力】

- 1：人が聞いてわかるように話をすることができない
- 2：筋道を立てて経験を述べることがむづかしい
- 3：同学年の子ども相応に経験を話すことができる（特に問題はない）
- 4：同学年の子ども以上の能力を持つ（筋道を立てて経験を述べるができる）
- 5：非常に優れている（理路整然とした方法で経験を述べるのがうまい）

具体例：

I :聴覚的理解と記憶

1【単語の意味を理解する力】

- 1 : 同学年の子どもと比べて、単語の理解力がとても未熟である
- 2 : 簡単な単語の意味がつかめない (同学年の子どもと比べて、単語の意味を取り違えやすい)
- 3 : 同学年の子どもが使う単語をよく理解している
- 4 : 同学年の子どもが使う単語をよく理解しているだけでなく、その年令以上の子どもが使う単語の意味も理解できる
- 5 : 単語の理解力が優れている (多くの抽象語を理解できる)

具体例 :

2【指示に従う能力】

- 1 : 指示に従うことができず、そのつどまごつく
- 2 : 普段は簡単な指示に従えるが、しばしば周囲の者の手助けを必要とする
- 3 : 聞き慣れた指示や、複雑でない指示には従うことができる
- 4 : 同時に言われた複数の指示を理解して、それに従うことができる
- 5 : 指示された内容がわかって、それに従うことが非常にうまくできる

具体例 :

3【クラス (集団の中で) での話し合いを理解する能力】

- 1 : クラスでの話し合いについていけず、また、理解することもできない
(いつも注意がそれている)
- 2 : 聞いてはいるのだが、よく理解ができない (しばしば注意がそれている)
- 3 : 同学年の子どもも相応である (話し合いに加わることができ、それについていける)
- 4 : クラスでの話し合いをよく理解できる (話し合いから何かを得ているようだ)
- 5 : クラスでの話し合いに積極的に参加する (話し合いの無いように素晴らしい理解を示す)

具体例 :

4【情報を記憶する能力】

- 1 : ほとんどの場合、思い出せない (記憶力が貧弱である)
- 2 : 何回も繰り返されると、簡単な事柄や手順は覚えられる
- 3 : 同学年の子どもも相応である (物事の記憶力は特に問題はない)
- 4 : いろいろな情報を覚え、時間がたってからでもよく思い出せる
- 5 : 記憶は細部にわたり、その内容も確かである

具体例 :

児童評定尺度

学習障害用

(改訂版)

THE PUPIL RATING SCALE REVISED Screening for Learning Disabilities

HELMER R. MYKLEBUST
Learning Disabilities Center
Northwestern University

兵庫教育大学 隠岐忠彦
埼玉県立衛生短期大学 上村菊朗
白百合女子大学 森永良子
兵庫教育大学 今塩屋隼男
同 上 天音哲治
同 上 浅川潔司
滋賀女子短期大学 服部照子

児童名(氏名の頭文字一文字)	性別	生年月日
	男・女	年 月 日生

記入者氏名名 (イニシャル)	性別	生年月日
	男・女	年 月 日生

○学習障害児について

「学習障害児」とは、知的に劣っているわけでも、盲や聾といった知覚障害があるわけでもないのに、学習能力が偏っていたり、認知能力にアンバランスがあり「読めない、書けない、計算できない」といった学習上の問題や、「注意を集中できない、落ちつきがない、衝動的、不器用」といった行動上の問題を持ったり「ルールを理解できない、整理整頓ができない」などの社会性に問題を持つ子どもさす新しい教育用語です。

○この評定を行うにあたって

児童評定尺度の主な目的は、学習障害の子どもを簡単に発見し、より良い教育を行うためのものです。学習経験の不足した子、潜在能力の劣った子を見つけることを意図しているわけではありません。この尺度は、5つの行動特性（1：聴覚的理解と記憶、2：話ことば、3：定位、4：運動、5：社会的行動）計24項目から構成されています。

評定は5段階尺度で行います。3が平均です。1と2は平均以下、4と5は平均以上です。つまり、1が最も低く、5が最も高い評定になります。子どもの能力の段階に当てはまると思われる番号を○で囲ってください。子どもはある面ではうまくやれるけれども、他の面ではそうではないかもしれないということに注意して、評定を行うときには、1項目ずつ独立に順次もれなく評定してください。（勉強ができるからスポーツもできる、というような考えは捨てて）。ここで重要なことは、この尺度の項目に基づいてのみ評定することです。評定項目の下に空欄がありますが、その項目を評定した根拠になる具体例を記してください。また、評定項目の後に「学校生活」などについて記入する欄がありますが、できるだけ具体的に記してください。

評定をできるだけ確実にこなうためには、評定するときに子どもをよく観察してください。

本尺度は、原著者 HELMER R. MYKLEBUST と出版社 GRUNE&STRATTON の許可をえて作成したものです。なおこの様式仕様は隠岐忠彦教授に特にご指導いただきました。

行動・学習評定項目

(小学校 : 学年)

(記入者氏名)

対象児童

アルファベットの頭文字最初の一字 ()

男・女

以下の評定項目があります。

漏れの無いようにお願いいたします。

目次

児童評定尺度・・・・・・・・・・ 1

注意集中困難や多動の評定・・・・ 11

学習の習熟内容等についての評定・・ 15